

平成二十八年年度 学力検査問題解説 (国語)

〈出題方針〉

- 1 国語の基礎的・基本的な内容について、できるだけ広範囲にわたって出題し、国語を適切に表現し、正確に理解する力をみるように努める。
- 2 文学的な文章と説明的な文章を理解する力をみるように努める。また、平易な古典を読む基本的な力をみるように努める。
- 3 作文と言語事項についての問題を出题し、文章表現力や基礎的な言語能力をみるように努める。

〈出題形式〉

| | |
|-------------------------|------|
| ◇ 大問1～大問5の5問構成 () 内は配点 | |
| ・ 大問1：文学的な文章 (25点) | |
| ・ 大問2：漢字・言語事項 (22点) | |
| ・ 大問3：説明的な文章 (25点) | |
| ・ 大問4：古典 (12点) | |
| ・ 大問5：作文 (16点) | |
| 合計 | 100点 |

大問1

【出題のねらい】

文学的な文章を理解する力をみようとしたものです。

資料文には、中学校の同級生であった三人が、初田(はつち)の旅立ちを機に再会し、不仲となっていた赤緒(あかお)と初田が和解に至るまでの心情の変化が、高杉(たかすぎ)の視点を中心にして描かれています。出典は、壁井ユカコ著『強者の同盟』です。

問1 文字どおりの意味で荷が勝っている。とありますが、これは、はつちのどのような様子を表していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア はつちが、その小さな身体には不釣り合いなほどの巨大な荷物を持っている様子。
- イ はつちが、父親のお下りのフィルムカメラをこだわって使い続けている様子。
- ウ はつちが、東京でカメラの勉強をするには必要のない荷物まで背負っている様子。
- エ はつちが、背負ったリュックサックに負けないほどの大きな夢を抱えている様子。

【正答】 ア

【解説】

はつちの様子を表現した一文について、「荷が勝つ」という表現の本文中における意味をとらえたい。また、その説明として最も適切な選択肢を選びます。「荷が勝つ」とは、「荷物が重すぎる。また、負担や責任が重すぎる。」という意味の慣用句ですが、ここでは、小柄なはつちが、「文字どおりの意味」で大きな荷物を持っていることを表現したものです。ア～エの選択肢は、本文の内

る姿」を指しており、それが具体的に表現されている部分を本文中から探します。指示文には、「連続する二文」という条件があり、これに照らすと、「鍛えられたく構える姿。唇をすぼめてく放つ姿。」が該当部分になります。求められている解答の単位が「文」であることに注意し、その最初の五字を書き抜くようにしましょう。

問4 ④ いい写真やな。 とありますが、次は、高杉がこのように発言した理由をまとめたものです。空欄にあてはまる内容を、三十字以上、四十字以内で書きなさい。(6点)

| | | |
|----|--|--|
| | この写真は、赤緒 <small>あかお</small> が中三の惨敗のときの悔しさを | |
| 30 | | |
| 40 | | |
| | と思ったから。 | |

【正答】 (例) 忘れることなく、不屈の根性ではいあがってつかみ取った一勝の喜びを伝えて
いる(三十七字)

【解説】

高杉が「いい写真やな。」と発言した理由を、指示された文脈や字数で適切に表現します。はっちの写真が高杉に伝えてくれた内容に着目し、それを本文中の心情表現や会話表現から読み取りま
す。具体的な表現は、次の三つです。

① この写真を見なければ知ることができなかつただろう——「こんなに、嬉うれしかったんやな……」。

② あのとき一人でコートにぶつけた感情を、自分だけの胸に刻みつけ、不屈の根性ではいあがってきて、つかみ取った一勝だ。

③ 「おまえが一年間向き合ってきたもんが、ここに詰まってる。いい写真やと思うぞ。」
これらの表現から、高杉の発言は、はっちの写真が、中三の惨敗のときの悔しさを忘れず、不屈の根性で一勝をつかみ取った赤緒の喜びを伝えていたことに対するものであるとわかります。

問5 ⑤ 大きな荷物と赤緒のあいだに挟まれた小さいはっちが、泣き笑いの顔で首を振った。 とありますが、このときはっちの心情を説明したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア 赤緒が泣きながら抱きしめてきたことに照れ笑いしながらも、自分の写真の実力を認めさせたことに満足している。

イ 赤緒を激怒させてしまった自分の写真の技術に不安を感じていたが、手渡した写真を赤緒が喜んでくれたことに安心してている。

ウ 自分の写真が再び赤緒を傷つけてしまったことを悔やむ一方で、それでも自分の夢を応援してくれる赤緒に対して感謝している。

エ 赤緒の謝罪の言葉をきっかけに、それまで感じていた不安から解放され、自分の写真への思いが赤緒に伝わったことを喜んでいる。

【解説】

「泣き笑いの顔で首を振った」ときのはっちの心情を、本文中の表現から読み取り、その説明として最も適切な選択肢を選びます。はっちの心情が読み取れる具体的な表現は、次の部分です。

- ① すこしおそろおそろといった、尻すぼみの声になって高杉の隣に顔を向けた。
- ② 手もとで一枚ずつ写真をめくる赤緒の顔を、はっちが不安そうに窺っている。
- ③ 「あつ、誰にも見せてえんよ。」

息を呑んで写真を凝視するだけの赤緒に、はっちが慌てたように言った。

- ④ 「ほやけどわたしはこれ、いい写真やと思う。ほんとはみんなに見て欲しい……。」

上目遣いに赤緒の顔を窺いながら怖々と、けれど頑固にあのときと同じ主張を繰り返した。

- ⑤ ずっと不安なまなざしで赤緒を見つめていたはっちが、ほっとしたようにくしゃつと表情を崩した。

これらの表現から、再会当初の不安が、赤緒と和解できたことへの安堵と、写真への思いが伝わった喜びに変化していく様子を読み取ることができます。まずアですが、「照れ笑い」は高杉の描写であり、はっちの心情を表すものではありません。また、はっちが自分の写真の実力を認めさせたことに満足している表現はありません。次にイですが、④からわかるように、はっちは、自分の「写真の技術」に不安を感じてはいません。次にウですが、はっちが渡した新人戦の写真について、赤緒は、「ひどい顔」と言っていますが、そのあとに写真のよさを認める発言をしており、傷ついた様子はありません。最後にエですが、赤緒の「中学んとき、……ごめん。」という謝罪の言葉を聞いたのはっちは、「ほっとしたように」表情を崩します。これは、はっちが不安から解放されたことを表現したものです。また、はっちの「泣き笑いの顔」から、高杉と赤緒が、自分の写真のよさを理解してくれたことへの喜びを読み取ることができます。したがって、正答は工になります。

大問2

【出題のねらい】

漢字の読み書きを含む、基礎的・基本的な言語能力をみようとしたものです。

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 勢力の均衡を保つ。
- (2) 俊敏な動きを見せる。
- (3) 命の大切さを諭す。
- (4) 興奮して頬をコウチョウウさせる。
- (5) 巧みに機械をアヤツる。

【正答】と【解説】

- (1) 「きんこう」と読みます。「均」という字は、「均等」「平均」などの熟語に用いられます。「衡」という字は、音読みで「こう」、訓読みで「はかり」「はか(る)」と読み、「平衡」「度量衡」などの熟語をつくります。「均衡」は、二つ以上の物・事の間、つりあいがとれていることを表す熟語です。
- (2) 「しゅんびん」と読みます。「俊」という字は、「俊足」「俊才」などの熟語に用いられます。「敏」という字は、「敏感」「敏速」などの熟語に用いられます。「俊敏」は、頭がよくて行動がすばやいことを表す熟語です。
- (3) 「さと(す)」と読みます。音読みで「ゆ」と読み、「教諭」「諭旨」などの熟語に用いられます。「おしえみちびく」という意味の言葉です。
- (4) 「紅潮」と書きます。「顔に血がのぼって赤みをおびること」という意味の言葉です。「潮」の音読みは「ちよう」です。
- (5) 「操」と書きます。「そう」と音読みすると、「操作」「体操」などの熟語をつくります。また「操」の部首は、「てへん(手偏)」です。
漢字の習得においては、音訓両方について、意味や用法を確認することが大切です。また、複数の読み方がある漢字の熟語の意味を調べると、語句の理解が深まります。さらに、漢和辞典等を使い、漢字がもつ意味や成り立ちにも興味をもつて学習するとよいでしょう。日ごろから漢字の筆順や点画などに注意しながら、文字を丁寧に書く習慣を身につけるとともに、漢字を正しく用いることが大切です。

問2 次の――部が連用修飾語になっているものを、ア～カの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

そしてすぐに、エミールが収集をしまっている二つの大きな箱を手にとった。どちらの箱にも見つからなかったが、やがて、そのチョウはまだ展翅板にのっているかもしれないと思いついた。はたしてそこにあった。とび色のピロードの羽を細長い紙切れに張り伸ばされて、ヤマユガは展翅板に留められていた。ぼくはその上にかがんで、毛の生えた赤茶色の触角や、優雅で、果てしなく微妙な色をした羽の縁や、下羽の内側の縁にある細い羊毛のような毛などを、残らず問近から眺めた。

(ヘルマン・ヘッセ著 高橋健二訳『少年の日の思い出』による。)

【正答】 ウ と カ

【解説】

連用修飾語についての理解を問う問題です。連用修飾語は、用言（動作・作用・存在・性質・状態などを表す言葉）を含む文節を修飾し、どのようににするのかをくわしくする修飾語です。また、連体修飾語は、体言（事物や人などを表す言葉）を含む文節を修飾し、どんなことやものであるのかを詳しくする修飾語です。**ア**、**カ**のそれぞれの言葉が何を（どの言葉を・どの部分を）修飾しているのか（被修飾語）を探し、用言が含まれている文節を修飾しているものが正答となります。

アの「大きな」は「箱を」（体言を含む文節）を修飾しているので連体修飾語です。

イの「どちらの」は「箱にも」（体言を含む文節）を修飾しているので連体修飾語です。

ウの「はたして」は「あった」（用言を含む文節）を修飾しているので連用修飾語です。

エの「生えた」は「触角や」（体言を含む文節）を修飾しているので連体修飾語です。

オの「羊毛のような」は「毛などを」（体言をふくむ文節）を修飾しているので連体修飾語です。

カの「残らず」は「眺めた」（用言を含む文節）を修飾しているので、連用修飾語です。

したがって、正答は**ウ**と**カ**になります。

文章の内容を理解するためには、それぞれの文の中の語句の役割や語句相互の関係に気をつけて、文がどのように組み立てられているのかを理解することが大切です。

問3 次の――部と同じ構成（成り立ち）になっている熟語を、あとの**ア**、**エ**の中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

勝利に歓喜する。

ア 匿名 **イ** 豊富 **ウ** 出納 **エ** 雷鳴

【正答】 イ

【解説】

熟語の構成（成り立ち）についての理解を問う問題です。**ア**、**エ**のそれぞれの熟語の構成を考え、例文の「歓喜」と熟語の構成が同じものを選択します。「歓喜」は「歓」と「喜」の二つの漢字が似た意味をもつ語の組み合わせです。

アの「匿名」は「名をかくす」という意味で、あとの漢字が前の漢字の目的や対象を示している語の組み合わせです。

イの「豊富」は二つの漢字が似た意味をもつ語の組み合わせです。

ウの「出納」は二つの漢字が反対の意味をもつ語の組み合わせです。

エの「雷鳴」は「雷が鳴る」のように前の漢字が主語、後の漢字が述語の関係をもつ語の組み合わせです。したがって、正答は**イ**になります。

問4 次の会話の空欄にあてはまる最も適切な敬語の表現を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

先生「おうちの方に、明日、家庭訪問にうかがいますと伝えてください。」
生徒「はい。明日、先生が()と伝えておきます。」

ア おじやまする イ うかがわれる ウ おいでになる エ まいられる

【正答】 ウ

【解説】

会話の中で敬語を適切に使うことができるかを問う問題です。会話の内容から、敬意の対象である「先生」の「来る」という動作を適切に敬語(尊敬表現)にできるかがポイントになります。

まずアの「おじやまする」は、「行く」の謙讓表現であり、適切ではありません。次にイの「うかがわれる」は、「行く」の謙讓表現「うかがう」に、「くれる」という尊敬表現が続いたものであり、敬語表現として適切ではありません。次にウの「おいでになる」は、「来る」の尊敬表現であり、適切です。最後に「エ」の「まいられる」は「来る」の謙讓表現「まいる」に、「くれる」という尊敬表現が続いたもので、敬語表現として適切ではありません。したがって、正答はウになります。

敬語は、相手や周囲の人と自らとの人間関係・社会関係を形成したり、維持したりする働きがあります。社会生活の中で、相手や場面に応じて、適切に使い分けられることができるようにしましょう。

問5 次のことわざや慣用句、故事成語などに関する会話の空欄Ⅰにあてはまる内容として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。また、空欄Ⅱにあてはまる言葉を漢字二字で書きなさい。(3点)

生徒「私は『気がおけない』という言葉が『安心できない』という意味で理解していましたが、正しくは『(Ⅰ)』という意味だとはじめて知りました。」

先生「『気がおけない』は『気のおけない』ともいいますね。一方で、本来の意味から転じて、別の意味をもつ言葉もあります。例えば、**Ⅱ**は、『不要な力添えをして、かえって害になる』という意味ですが、『力を添えて成長・発展を助ける』という意味でも使われます。」

ア 遠慮がいらぬ イ 落ち着きがない ウ 関係がない エ 油断ができない

【正答】 Ⅰ ア Ⅱ 助長

【解説】

ことわざや慣用句、故事成語について理解を問う問題です。「気が(の)おけない」は、本来の「遠慮をする必要がない」という意味が忘れられ、「油断ができない」や「安心できない」といった誤った意味で使われることが多くなった言葉です。したがって、正答はアになります。このほかにも、「情けは人のためならず」「役不足」などの言葉が誤った意味で使われることがあります。誤った使い方をすることによって、誤解や失礼を生むこともあるので注意しましょう。

一方で、本来の意味から転じて複数の意味をもつ言葉もあります。助長という言葉は、「不要な力添えをして、かえって害になる」という意味のほかに、「力を添えて成長・発展を助ける」という意味もっています。

ことわざや慣用語、故事成語を学習することによって、先人の知恵や教訓、機知に触れることができます。言語感覚を豊かにするために、これらの言葉の意味を知り、実際の言語生活で正しく用いることができるようにしましょう。

大問3

【出題のねらい】

説明的な文章を理解する力をみようとしたものです。

本書は、進化生物学者である筆者が、ヒトがいつ、どこで生まれ、どのような進化を経て現在の姿になったかを、自然人類学の最新の研究成果をふまえて説明したものです。資料文は、直立二足歩行を獲得したヒトが、社会関係を理解し、脳の前頭前野を拡大させることで過酷なサバンナの環境の中を生き抜き、現在の繁栄を築いたことを述べています。出典は長谷川眞理子著「ヒトはなぜヒトになったか」(『科学は未来をひらく 中学生からの大学講義3』所収)です。

問1 ① ヒトはもう一度地上に降りてきた。とありますが、ヒトが生活の場を森から平原に移した

理由について述べている段落(形式段落)を本文中から探し、その最初の五字を書き抜きなさい。(4点)

【正答】 では、なぜ

【解説】

段落とは、文章の中でまとまった内容を表しているひとくぎりを行います。文字で書く場合、段落の変わりめでは行を改め、最初の一字文を空けて書きます。この段落のことを形式段落(または小段落)といいます。

ヒトが生活の場を森から平原に移した理由について、具体的に述べている記述を探します。すると、「なぜ、ヒトは過酷な平原・サバンナに進出していったのか。」という問いかけをしたうえで、「地球上の森林の減少に触れ、「環境変化のためにサバンナに行かざるを得なかったのがヒトであった。」という記述が見つかります。この部分を含む段落(形式段落)の最初の五字を書き抜きます。

問2 ② ヒトとほかの霊長類との決定的な違い ②とありますが、筆者は、ヒトとほかの霊長類との決定的な違いは、どのような点にあると考えていますか。次の空欄にあてはまる内容を、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。(6点)

| |
|--------|
| ヒトは、足を |
| 35 |
| と |
| という点。 |

【正答】 (例) 完全に移動するための道具にすることで、手が自由に使えるようになった (三十三字)

【解説】

本文中で、筆者が考えるヒトとほかの霊長類との決定的な違いについて述べているのは、「そうまでしたのに：」と「人間の足は：」の連続する二つの段落です。この段落に示された、ヒトとゴリラやチンパンジーなどの類人猿との「決定的な違い」は、次の二つになります。

- ① ヒトは二本足で地上を歩行することを選び、足を完全に移動するための道具にしてしまった。
- ② ヒトの手の仕組みはほかの霊長類と変わらないが、移動に手を使うことがなくなり、自由に使えるようになった。

これらの内容を、指示された文脈と字数でまとめます。

問3 ③ サバンナに適応し生き抜くための、ヒトの進化 ③とありますが、筆者が考えるサバンナにおけるヒトの進化として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 頭上の木々の果実や葉っぱを食べるために歯を変化させた。
- イ 地球上で進む乾燥や寒冷化に適応するために体毛が増えた。
- ウ 汗腺がほかの哺乳類同様に増え、汗を多くかくようになった。
- エ 水場から次の水場へと長距離の移動ができるようになった。

【正答】 エ

【解説】

本文中で、筆者の考えるサバンナにおけるヒトの進化について述べているのは、「森林から：」と「私たちヒトは：」の連続する二つの段落です。この二つ段落の記述と選択肢の内容を読み合わせ、最も適切なものを選びます。まずアですが、「頭上の木々の果実や葉っぱを食べるため」の歯の変化は、ヒトが森林にいたときの進化であり、サバンナにおける進化ではありません。次にイですが、環境への対応としてヒトは体毛を失った、と述べられています。体毛が増えた」という記述はありません。次にウですが、本文中に、「私たちヒトは暑さで汗びっしょりになるが、こういう哺乳類は実はあまりいない。」とあり、「汗腺がほかの哺乳類同様に増え」た、とはいえませ

問5 本文に書かれている内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア ヒトがサバンナに進出していったとき、チンパンジーは森林にとどまることによって、食料を安定して確保できるようになったが、二足歩行をしなかったため、現在は絶滅の危機に瀕している。

イ ヒトは、減少する森林にしがみつくことをせず、足を独自のかたちに進化させることでサバンナの過酷な環境に適応し、さらに個々が果たすべき役割を意識した集団を形成することで現在の繁栄を築いた。

ウ ヒトの脳は少しづつ大きくなったのではなく、チンパンジーと分かれて二足歩行を始めた時点で一度急激に大きくなり、その後、現在のホモ・サピエンスが登場したときに再び大きくなった。

エ ヒトは、600万年前に類人猿から分かれた後、過酷なサバンナの生活環境に適応するために、二本足で歩くように骨格を進化させ、また食料を確保するために、自然を利用した道具の製作を覚えた。

【正答】 イ

【解説】

本文の記述と選択肢の内容を読み合わせ、最も適切なものを選びます。まずアですが、環境変化で減少する森林にとどまることは、「食料を安定して確保できる」とはいえません。また、チンパンジーが絶滅の危機に瀕しているのは、「二足歩行をしなかったため」ではありません。次にイですが、現在のヒトの繁栄と進化について、本文中に、「現在、世界中至るところで文明社会を築き、繁栄を謳歌している」「人間の足は独自のかたちで進化を続けた」「環境変化のためにサバンナに出て行かざるを得なかった」「自分と相手の果たすべき役割を理解し、目標達成のために何をするかを考え、いっしょに行動する」などの記述があり、適切な内容です。次にウですが、ヒトの脳の進化について、本文中に、「サバンナに出て行き環境に適応したホモ属が出てきた頃から、一度急激に大きくなる」とあり、急激に大きくなったのは「チンパンジーと分かれて二足歩行を始めた時点」ではありません。最後にエですが、ヒトが600万年前に分かれたのはチンパンジーであり、「類人猿」ではありません。また、二本足で歩くようになったのは、「森での生活の時点」です。したがって、正答はイになります。

問3 かくぞ詠みける。とあります。浮世房が詠んだ「雨ふれば三五夜中の真の闇二千里わたるくらかりの声」と同じ季節が詠まれている和歌として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山
- イ 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる
- ウ 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香にほひける
- エ 冬枯れの森の朽葉の霜の上に落ちたる月の影の寒けさ

【正答】 イ

【解説】

まず、浮世房が披露した和歌に詠まれた季節を読み取ります。本文から、この和歌が披露されたのは、八月十五日(三五夜中)の月見の会であることがわかります。古典では現代と暦が違うので、八月十五日の季節は秋になります。また、和歌の中には「くらかりの声」とあり、動物の「雁」が詠まれています。雁は、本文中では「雁」とも表現されていますが、秋の風物として『枕草子』の「春はあけぼの」にも登場しています。これらから、浮世房が披露した和歌に詠まれた季節は、秋であることがわかります。

次に、それぞれの選択肢の和歌で詠まれた季節をみてみましょう。まずアですが、「春過ぎて夏来たるらし」とあり、(晩春から)初夏を詠んだものです。次にイですが、「秋来ぬ」は、秋が来たという意味であり、秋(立秋)を詠んだものです。次にウですが、「花ぞ昔の香にほひける」の「花」は梅の花であり、春を詠んだものです。最後にエですが、「冬枯れの森の朽葉」とあり、冬を詠んだものです。したがって、正答はイになります。

なお、浮世房の詠んだ和歌に出てくる「くらかりの声」には、二つの意味がかけられています。

① 「三五夜中の真の闇」から、「暗がり」

② 「雁のわたる声」から、「雁(雁)の声」

このように、一つの語に二つの同音の語の意味を重ねる技法を、掛詞といいます。歌人たちは、こうした技法を駆使して和歌の世界を豊かに表現しようとしたのです。

問4 本文の内容について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア とりわけまんまるに満ちる八月十五日の月を餅月とも呼ぶが、浮世房は、月見の会で満月をまるい餅にたとえた和歌を披露した。
- イ 八月十五日の月見の会に集まった歌詠みたちは、鴈の声を題材に和歌を詠んだが、浮世房も主君の期待に応えた和歌を披露した。
- ウ 前もって鴈の声を題材にした和歌を用意していた浮世房だったが、月見の会ではいかにも悩んだふりをして和歌を披露した。
- エ 主君から和歌を詠むように催促された浮世房は、あれこれと悩み抜いたが、闇夜をわたる鴈の声をきっかけに和歌を披露した。

【正答】 エ

【解説】

本文の記述と選択肢の内容を読み合わせ、最も適切なものを選びます。まずアですが、浮世房が披露した和歌に、満月を餅に例えた表現はありません。次にイですが、歌詠みたちは、満月を詠んだ和歌を「含み句」として用意してきたと考えられますが、鴈の声を題材にした和歌は詠んでいません。次にウですが、「仰あやのきうつぶき麦穂の風にふかるるやうに案じ」は落ち着きなく考える様子を表現しており、浮世房が前もって用意した和歌を悩んだふりをして披露したのではないことがわかります。最後にエですが、浮世房が、「いかにいかに」という主人の催促に対し、「仰あやのきうつぶき麦穂の風にふかるる」ように考え悩みましたが、「鴈のわたる声」を聞き、「ふと思ひよりにて」和歌を詠んだと述べられており、適切な内容です。したがって、正答はエになります。

大問5

【出題のねらい】

「家庭ごみの減量」についての自分の考えを「家庭ごみの容積の割合」を示した資料から正確に読み取った情報や自分の体験（見たこと聞いたことなども含む）を自分の考えの根拠として、段落や構成に注意しながら書く力をみようとしたものです。

【解説】

まずは、自分のものの見方や考え方を整理するために、作文の構成メモ（一例）を書きます。構成メモなどをつくることで、文章の柱がぶれなくなります。また、見直しや推敲すいこうがしやすくなります。

- ① 「家庭ごみの減量」についての自分の考えを書きます。
- ② 「家庭ごみの容積の割合」の資料から必要な情報を正確に読み取ります。①の自分の考えの根拠になる情報を正確に読み取ります。
- ③ ①の考えの根拠になる「家庭ごみの減量」についての自分の体験を書きます。

次に、右のメモの①～③を書く順番、段落や構成について考えます。

次に、（注意）に従いながら、記述に入ります。字数が限られていますので、同じ内容や言葉が重複しないようにしましょう。自分の考えや意見を述べるときには、自分の立場を明確にして、論理の筋道が通るように記述することが大切です。筋道を立てて書くと、自分の考えや意見を相手に説得力をもって伝えることができます。具体的には、次の点に留意しましょう。

- ① 自分の考えや意見、判断の根拠（理由）を明確にする。
- ② 根拠（理由）は、客観性や信頼性の高いものを選ぶ。
- ③ 最初から最後まで、自分の立場がぶれない（自分の意見が揺れない）ようにする。
- ④ 資料（グラフなど）からの情報、本の内容や他から聞いた言葉などを含む場合は、適切に引用する。
- ⑤ 論理の展開を工夫し、順序立ててわかりやすく説明する。

理由をあいまいにしたり、体験の内容が意見とずれていたたり、途中で「どちらとも言えない」というように立場がぶれてしまうと、説得力が弱い文章となってしまいます。意見・根拠（理由）・体験が一貫していることが大切です。また、「論理の展開」については、初めに自分の考えや意見を述べ、それを裏づける事実（体験）を述べたうえで、具体的な事実（体験）を一般化すると、自分の意見の正当性や妥当性を示すことができます。他の人の言葉などを引用するときには、「」でくくったり、出典を明示すると、信頼性が高まります。記述に際しては、対象となる事柄を順序立ててわかりやすく説明しましょう。

また、注意(3)に、「原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。」とありますが、句読点、符号、改行など、原稿用紙の使い方に従って文章を書き、書いた文章を推敲する習慣を身につけることが大切です。普段から、文章を書く際に、学習した漢字を正しく用いて丁寧に書く習慣を身につけるようにしましょう。

説得力のある文章を書くには、説明したい内容を端的に表す言葉や接続語などを適切に使えるということも大切です。論理的な文章を読んだり、客観的な説明を聞いたりする学習活動を大切にしましょう。答案の中には、話し言葉をそのまま書いたり、文末表現に常体と敬体が混じったりしているものがありました。相手や目的に応じた、適切な表現を心がけましょう。そのためは、日ごろから、読み手を意識して、わかりやすい文章にすることが大切です。また、書き上げたあとには必ず読み返して、自分の文章を確認しましょう。